

栃木県青年農業者海外研修報告

財団法人栃木県農業振興公社主催、平成18年度栃木県青年農業者海外研修に、上三川町から参加した、野澤努さん（東汗東）から報告記をいただきましたのでご紹介します。

今回の視察研修は10月4日から13日までの日程で、オランダのアムステルダムとロッテルダム、ドイツのシュトゥットガルトそしてフランスのパリ周辺の農家や市場などを訪問して行われました。私自身は、妻が、「これ行ってきたら？」と広報かみのかわで募集案内を見ながら勧めてくれなければ多分参加するのは躊躇してしまいました。なにしろ今回青年農業者として参加させて頂きましたが、青年と呼ばれるには今回の参加者の中でも年長でしたし、妻の実家から農家を昨年引き継いだばかりの農業初心者でしたので。

さて10日間の日程の中で、私たちは昼夜問わず農業や環境のことを語り続けていました。訪れた農家の合理的な経営方法や生産性へのこだわりに驚きながら、行く先々で研修受け入れ先の方々も感動するほど全員が数多くの質問をし、農産



物への取り組み方を聞き出してきました。そこで私たちは、世界の農業はそれぞれの国からの保護を打ち切られ、農家が一つの企業体として自立した経営の方向に進んでいるのを目の当たりにして、日本の未来像を見せられているような気がしていました。例えばオランダ人農業者は飛行機で6時間ほど離れたアフリカで農業経営をし、そして自国の市場に卸し、市場から空輸で海外中に販売する。35ヘクタールの農地から3億円の年収を上げている。ハウスの照明は自宅が発電し、発電で発生する熱や二酸化炭素も促成栽培に利用し、余った電気は電力会社に販売する。超大型機械を導入し、農地は30ヘクタールあるがEUからの補助がなければ採算がとれない。参加者が最終訪問先のパリに着いた頃には、強い連帯感を持って日本のこれからの農業について語り合っていました。ただ自国のものを自国で生産し、自国で販売していいのかが、パリで流通しているアメリカの米を食べながら考えていました。また環境変化についてですが、やはりヨーロッパ



でも気象状況は大きく変化しているようです。史上記録のない雹の影響で果樹が被害を受けたり、史上最悪の嵐で植林が倒木したりしている様子も農家の方々から説明されそして目にしてきました。環境がおかしい。ヨーロッパの誰もがそう話していました。大気中二酸化炭素量の増加で地球温暖化が進んでいるといわれて何十年にもなりますが、いまだに解決できず、悪い方向に進んでいます。農業者の一人として私も、二酸化炭素量の削減として冬に菜の花を栽培したり、野芝焼きをできるだけ止めたり止めさせたりしていますが、もっと積極的に進めなくては、地球は住めない星になってしまうかもしれません。

なぜ人が学ぶのかといえば、それはよい出会いをするためです。今回の研修では、このような問題を話し合える友人ができたという意味でも大いに有意義なものでした。研修参加に際し、援助推薦して頂きました町、ならびに留守中に娘と家を守ってくれた妻と義母に心から感謝いたします。